

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 1 日

事業所名 : 放課後等デイサービス あおば

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			静養室等の個室対応やパーテーションを使っている。	感染症対策を意識した換気や、静養室等の個室の活用を心がけている。
	2	職員の配置数は適切である	○			介護福祉士1名、保育士6名の有資格者を配置している。	常勤、非常勤の保育士6名で日々の業務を行っているが、マンツーマン対応を要する児童が増えると、人手不足を感じる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○				
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			毎朝職員全員が、朝礼で前日の振り返りを特記報告している。	上手く行かないことや問題点等の関わり方を話し合い、解決に繋げていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		今後の状況を見ながら第三者評価の活用を検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			日曜の定休日にある研修などは、参加する際に代休を確保出来る様に勤務調整を行っている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			利用する児童1人1人に応じたプログラムを考え、臨機応変に対応している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○				PDCAサイクルに基づいて、随時職員で話し合い見直しを行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			学校が長休みに入る直前に職員会議を行い1日1日の活動予定を話し合っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動が苦手な子ども達も行事を楽しめるように考えている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				毎朝職員全員で朝礼を行い、その日その日の予定や役割をお互いに確認しているのを継続して行きたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				翌日への伝達をホワイトボードを活用して連絡している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			解りやすく読みやすい記録の作成を心がけている。	作成した記録を担当者会議の参考資料として提出して情報共有を円滑に行いたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		保護者が話しやすい相手を選べるように、児発管(男性)と保育士(女性)の男女ペアで参加している。	男女の職員がペアで保護者に対応することで、手厚い対応と安心感に繋がるように努力していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		下校時間の伝達ミスが起こらないように、学校への確認の電話連絡も密に行っている。	トラブル発生時には学校と事業所がお互いにフォローし合える良い関係を目指している。
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談員さんと担当者会議を行い、情報共有を深めるように心がけていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		近隣の就労事業所や、生活介護事業所への理解を深める。	就労や生活介護の通所事業所へのつながりを意識して支援に繋げていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			状況を見ながら、発達障害者支援アドバイザー派遣事業を活用してよりよい支援に繋がってきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		児童館や子ども交流センターへの外出をして交流の機会を確保している。	公園やかほく等の施設への外出行事も継続して地域の子どもや人達との関わりを深めていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今後も継続して七尾・中能登自立支援協議会で開催される子どもの部会に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳で伝えるだけでなく、日々の楽しんでいる様子を写真や動画で送信して見てもらっている。	いろいろな手段を活用して、保護者との情報共有、伝達を継続していきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		職員が今まで対応してきた経験を、家族への参考に活かせる様に助言をしている。	感染症対策などの影響で、支援学校での先輩保護者から得られていた助言の機会が減っているとされる保護者様もいるので、不安に感じているところをフォローしていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			感染症や地震で辛い思いをしている保護者様の意見を聞き、求められる助言を行えるように機会の提供を考えていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情は速やかに責任者、管理者へ報告・連絡・相談を行っている。	利用する児童・保護者様へ、親身になって問題解決の対応を心がける。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを作っている。	あおばのお便り配布を継続して、読まれる皆様笑顔になるような内容、取り組みを続けていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			事業所が全面ガラス張りの中がよく見えるのを利用して、外から中をのぞくと「あおばを利用したい」と思っただけのように笑顔溢れる丁寧な支援を行ってきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各種マニュアルを連絡帳に入れて常に見ることが出来る様にしている。	随時見直し更新を行い、最新版のマニュアルを用意する。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回避難訓練を実施して、訓練に参加できない子、動けない子どもは無理に参加せずに、動かない動けない事を想定して職員間で打ち合わせを行っている。	地震の経験を活かして、今後の避難訓練に取り組んでいきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			チェックリストを活用して職員のセルフチェックを実施している。	毎年必ず虐待防止の勉強会を行い、虐待を未然に防げる取り組みを続けていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			物を壊したり、他者に危害を加えない限りはむやみに身体拘束をしないように心がけ職員に周知を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				保護者から処方箋のコピー等の指示書を常に預かり、必要に応じて対応の依頼希望などをこまめに聞き取っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				些細な事を見逃さずヒヤリハットに報告し、職員間で共有していきたい。